



特集7

ボクン家は、グループホーム！

～障害があってもなくても、
誰もが笑顔で暮らせる社会を目指して～



牛乳や紙パック飲料を手際よく並べます。

■松永慎一郎さん
平成10年に、大東町にある大型ショッピングセンター（西友ザ・モール安城）に就職しました。養護学校に通っていた時の学校の紹介で実習に行ったのがきっかけです。実習では、ほかの仕事も体験しましたが、お客さまと接するこの仕事が自分に合っていると感じました。

■支援者3（職場の上司・驚見さん）
会社として彼（慎一郎さん）が必要であるというだけのこと、特別扱いしていません。お客さまは、普通に社員の一人として見ますから。
正確に品出しと接客ができるよう徹底的に訓練しました。彼も歯を食いしばりながら必死に仕事を覚えようと努力しました。真面目で正確な仕事ぶりは、

「地域で働く」
—職場で—

ホームから
職場へ



松永さんの部屋

■松永慎一郎さん

将来的に、親元を離れて生活したいと思い、まずは、一泊二日の外泊練習から始めました。その後、連泊の練習を重ね、徐々にホーム生活ができるよう経験を積んでいきました。
グループホームで面白い話をしたい時は、居間でみんなと過ごします。一人になりたい時は、自分の部屋でビデオ鑑賞などをして過ごします。



出勤前の松永さん

「地域で暮らす」
—グループホームで—

仕事から帰った時に、ホームに電気がついているのを見ると安心します。みんなに迎えらるうれしさは格別です。
今度、ホーム仲間とデイズニッシーへ行きます。とても楽しみです。

■支援者1（母・弘子さん）

とにかく、本人（慎一郎さん）には、失敗してもいいから、どんどん外へ出るようにすすめました。もし、分らないことがあったり、困ったりしたら、周りの人に聞くことができれば大丈夫だからと。本人が自立に向かって努力している姿を見て、わたし自身も子離れできて、親として成長したように思います。今は楽しんでホーム生活をしているので、うれしく思っています。



仲間と食卓を囲んで

■支援者2（ポテト福祉会・黒川さん）

本人や保護者のやる気は大切なこと。でも、それだけでは障害のある人の自立は難しいです。地域で、障害のある人の生活を支える環境を整えることが重要です。
今後、本人が自然体で過ごせるよう、希望を聞きながら、よりよいサービスを提供したいです。

職場から
ホームへ



重いカゴもヒョイッと

ほかの社員からも信頼され、「しんちゃん」と呼ばれ親しまれています。
「接客態度が親切」と、お客さまから投書があり、社長賞をもらったこともあります。

ホーム生活を考えている人たちへ

松永さんは、今後、ホームでの自立を考えている後輩たちに力強くエールをおくりました。
「本人の意欲があれば、必ず前に進めます。家族がいくら言っても、本人がその気にならないと実現できません」
市も、ホーム生活を考えている人たちを応援します。ホーム生活の練習として、「短期入所（ショートステイ）」や「ホーム体験入居」を利用することも可能ですので、ぜひご相談ください。まずは、第一歩から…。

■グループホームとは？

国（厚生労働省）が定める障害福祉サービスの一つです。

ホーム運営法人は、入居者4～5人が共同生活する住居に、家事（調理・洗濯など）をする世話人を配置し、障害の程度に応じ、入浴・排せつ・食事の介護などの支援をします。

市は、ホーム運営法人に対し、介護給付費を支払います。

そのため、入居者は、軽減された負担額でホームを利用することができます。

なお、法律上は、共同生活援助（グループホーム）と共同生活介護（ケアホーム）に分類されますが、この記事では、総称して「グループホーム」と表現しています。

グループホームの利用状況 (平成21年4月1日現在)	
利用者数	40人
ホーム数	17か所(うち市内7か所)

※安城市から他市町村のホームを利用している人を含む。

■12月3日(木)～9日(水)は「障害者週間」です

障害は、誰にも生じ得る身近なものです。確かに不自由はありますが、周囲の理解や支援があれば、「自立」に向けて、可能となることも数多くあります。

この機会に、障害のある人に対して、どのような配慮や支援ができるか考えてみましょう。そして、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、みんなで支え合う社会を実現しましょう。

詳しくは、国のウェブサイト(<http://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/s-hukan/kyousei.html>)をご覧ください。



問▼障害福祉課
☎71-22225